

令和7年度 八戸市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和8年5月

八戸市（青森県）

○計画期間:令和6年4月～令和11年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点(令和8年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、令和6年4月の認定基本計画に基づき、「人の活動と交流が生まれるまち 未来を創る人材が生まれるまち ～次世代に繋ぐ中心市街地～」の実現に向けて、「多様な活動や交流が生まれるウォーカブルなまちづくり」、「地域に根差し街の未来をつくる経済活動が生まれるまちづくり」、「暮らすこと滞在することが楽しくなるまちづくり」の3つの基本方針のもと、各種事業に取り組んでいる。

目標指標については、「AI カメラ地点通過者数」は、令和7年度は人流分析ソフトの不具合により、データ取得不可のため、KDDI Location Analyzer (KDDI が提供する人流データ分析ツール) を代替データとしているが(Ⅱ. 目標指標ごとのフォローアップ結果4. 目標指標ごとのフォローアップ結果(1)「AI カメラ地点通過者数」にて詳細を後述)、代替データ間での比較において、前年比で1,000人増の6,400人となった。また、「公共施設来館者数」は令和7年度では前年度から43,314人増の1,548,523人となり、まちなか居住者や観光、ビジネス客といった多様な来街者の増加により、どちらも前年度を上回る結果となった。エリアの価値や中心街の魅力度を表す「地価」については三日町が微増となり、これまで公共施設を集積させてきた効果として、民間再開発が誘導されるなど、エリア価値が維持されている結果が反映され、2年連続の増加となった。

取組の概要として、「十三日町・十六日町地区再整備事業」については、これまで既存建物解体、マンション2棟と駐車場棟の建設を進めてきたが、令和8年3月にマンション1棟が完成し、同月より入居が開始したことから、目標指標に設定しているまちなか居住者の増加も期待される場所である。

また、「八戸市中心街ストリートデザイン事業」については、令和7年度は、国道340号三日町・十三日町区間の具体的な街路再整備方針を策定するにあたり、多様な関係者から広く意見を聴取するため「八戸市中心街ストリートデザイン検討会議」を開催した。また、ひと中心のみちづくりを進める「八戸市中心街ストリートデザインビジョン」に基づき、街路空間使いの実践と定着を図るための「日常の賑い」づくりを目的とした市民の買物と交流の場として「マチニワナイトマーケット」を継続して開催した。

計画開始から2年が経過し、これまでのところ、目標指標は概ね達成見込となっているが、計画掲載事業については、これから直接的な効果を発現する事業もあることから、今後も注視しながら着実に各種事業を推進していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度9月30日)

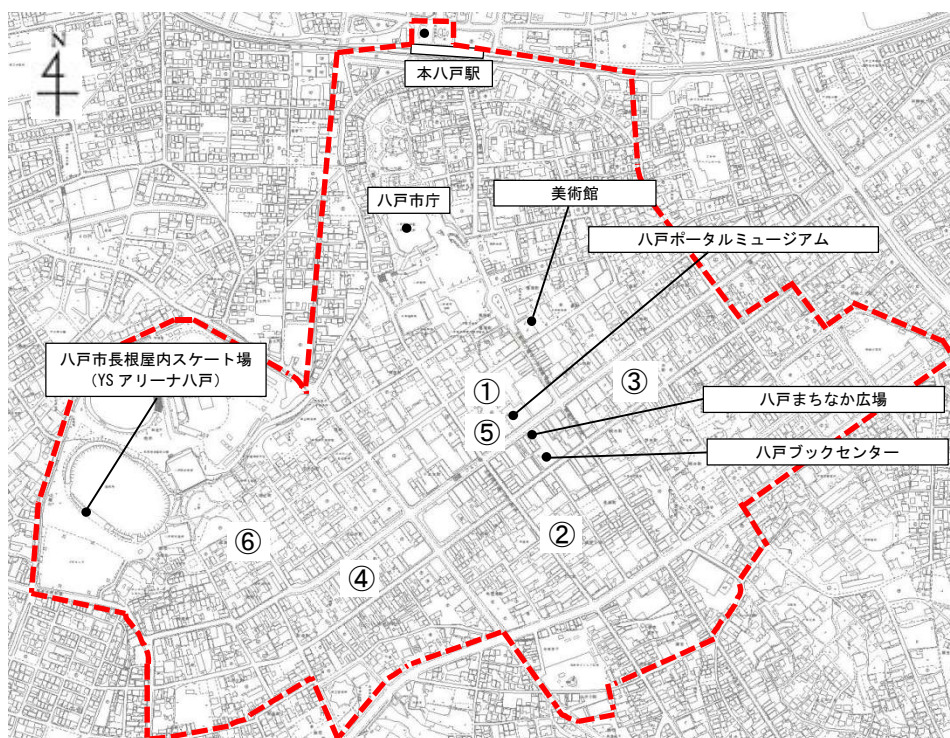
(中心市街地 区域)	令和5年度 (計画前年度)	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
人口	4,495	4,383	4,286			
人口増減数	40	△112	△97			
自然増減数	△60	△76	△62			
社会増減数	100	△36	△35			
転入者数	178	146	111			

(2) 地価

(基準日：毎年度1月1日、単位：円/㎡)

	令和5年度 (計画前年度)	令和6年度 (1年目)	令和7年度 (2年目)	令和8年度 (3年目)	令和9年度 (4年目)	令和10年度 (5年目)
①番町35番11 (商業地)	72,200	73,000	74,000			
②大工町3番1 (商業地)	57,700	57,600	57,600			
③朔日町18番 (商業地)	62,000	61,900	61,900			
④廿三日町28番1 (商業地)	74,400	73,800	73,800			
⑤三日町4番1 (商業地)	130,000	131,000	133,000			
⑥稲荷町10番6 (住宅地)	52,300	52,300	52,300			

【公示地価位置図】



2. 令和7年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

当市中心市街地では、八戸市中心市街地活性化協議会並びに八戸商工会議所、(株)まちづくり八戸、行政や中心市街地関係者が連携し、官民一体となって活性化に取り組んでいる。

目標指標の推移をみると、「公共施設来館者数」「ホテル宿泊者数」は数値がやや上昇し、「空き店舗・空き地率」は数値が改善するなど、青森県東方沖地震の影響を受けつつも全体的に好転の兆しを感じられる。また、AIカメラ人流分析ソフトの不具合が解消される本年度からは、正確な数値把握とともに、人流分析データを官民で共有し、各主体の施策・事業展開への有効な活用が図られることを期待したい。

基本計画に掲載の「十三日町・十六日町地区再整備事業」は、マンションA棟および駐車場棟が竣工し、今夏には商業・ホテル棟の完成を見込むなど着実に進展している。周辺では新規創業店舗も複数みられ、マンション住民を含めて中心街再生への新たなプレイヤーの呼び水となっている。1階商業施設の開店を含めた全体事業には今後も大いに期待が寄せられている。また、十三日町街区の活性化に向けては、大型空き店舗や休店店舗の状況について、市、当協議会を含む関係機関において情報共有を密に進めていただきたい。

そのほか、「新体育館整備事業」は建築費高騰に加え、昨年12月および本年4月と続いた地震の影響も受け依然として厳しい状況にある。しかしながら、本施設は市民が長年待ち望んだものであり、一日も早い事業の進展を期待したい。

八戸市におかれては、引き続き目標指標の推移や現下の諸状況を精査・分析の上、適切な対応策を講じて推進していただきたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
目標Ⅰ ウォーカブルな空間づくりの推進と賑わい創出	AIカメラ地点通過者数	36,351 人 (R5)	36,874 人 (R10)	37,695 人 (R6)※1	A	A	A
	下段:KDDI代替データ	6,100 人 (R5)	-	6,400 人 (R7)			
	公共施設来館者数	1,014,194 人 (R4)	1,572,900 人 (R10)	1,548,523 人 (R7)	B	A	A
目標Ⅱ 魅力ある商店街の再生	空き店舗・空き地率	17.2% (R4)	16.1% (R10)	13.6% (R7)	A	A	A
	(参考指標)創業等支援件数	10 件／年 (H30～R4)	10 件／年 (R6～R10)	12 件／年 (R6～R7)	A	A	A
目標Ⅲ 暮らしやすさの向上	まちなか居住者増加数	26 人 (H30～R4)	105 人 (R6～R10)	△71 人 (R6～R7)	C	A	A
目標Ⅳ 宿泊滞在の推進	ホテル宿泊者数	486,563 人 (R4)	522,957 人 (R10)	371,435 人 (R7)	C	A	A

※1

「AI カメラ地点通過者数」は、令和7年度は人流分析ソフトの不具合により、データ取得不可のため、KDDI Location Analyzer (KDDI が提供する人流データ分析ツール) を代替データとしている。(4. 目標指標ごとのフォローアップ結果 (1) 「AI カメラ地点通過者数」にて詳細を後述)

< 基準値からの改善状況 (※1) >

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 (※2) >

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A : 目標達成が見込まれる

B : 目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C : 目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「< 基準値からの改善状況 (※1) >」、< 目標達成に関する見通しの分類 (※2) >ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。(例: a、b、c)

2. 目標達成見通しの理由

○「AI カメラ地点通過者数」については、令和7年度は人流分析ソフトの不具合により、データ取得不可のため、KDDI Location Analyzer（KDDI が提供する人流データ分析ツール）を代替データとしているが（4. 目標指標ごとのフォローアップ結果（1）「AI カメラ地点通過者数」にて詳細を後述）、前年比で1,000人増の6,400人となり、基準年度の数値を上回る結果となった。

今後は「八戸市中心街ストリートデザイン事業」や「十三日町・十六日町地区再整備事業」、「旧柏崎小学校跡地広場整備事業」、「はちのへ AI 中心街・バス活性化プロジェクト」により、中心街への来街機会の創出や回遊性の向上がより見込まれることから、目標達成は可能と見込まれる。

○「公共施設来館者数」については、令和7年度の来館者数は1,548,523人となり、前年度より43,314人増加し、基準値は上回るものの、目標値は下回る結果となった。施設別にみると、ブックセンターを除き、4施設が前年度に比べ、来館者数が増加した。

今後は、「八戸ポータルミュージアムイベント開催事業」や「八戸ブックセンターイベント開催事業」、「八戸まちなか広場イベント開催事業」、「八戸市長根屋内スケート場施設活用事業」、「八戸市美術館イベント開催事業」といった各施設のイベント充実により回遊性向上が見込まれることから、目標達成は可能と見込まれる。

○「空き店舗・空き地率」については、令和7年度は13.6%となり、基準値、目標値ともに上回る結果となった。店舗外用途での使用や住宅改修使用、駐車場利用など用途の多様化による利活用がみられ、街区によっては、空き店舗・空き地率が高止まり傾向にあるが、十三日町や十六日町は再開発事業の影響もあり、数値が改善した。

今後は、引き続き「中心商店街空き店舗・空き床解消事業」、「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」、八戸市中心市街地活性化協議会において「エリアマネジメントの視点での空き店舗対策事業」等を実施することで、数値改善により寄与すると考えられることから、目標達成は可能と見込まれる。

○参考指標の「創業等支援件数」については、令和6年度～令和7年度の年平均は12件となったことから、目標値としている令和6年度～令和10年度までの年平均10件を達成している状況である。今後も、引き続き「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」といったサポート体制の充実により目標達成は可能と見込まれる。

○「まちなか居住者増加数」については、直近の令和7年の社会増減数は35人の減少、転出超過となり、令和6年からの合計値が71人の減少となっている。

今後は、計画期間内に「十三日町・十六日町地区再整備事業」によるマンション2棟が完成することで、居住促進に寄与する見込みとなっていることから、目標達成は可能と見込まれる。

○「ホテル宿泊者数」については、令和7年は371,435人となり、基準値、目標値ともに下回る結果となった。基準値は14施設の合計値となっているが、令和7年は12施設の合計値となっている。2施設において、R6年12月及びR7年1月より宿泊者数の外部提供を行わない方針となったことから、2施設分を除いた12施設分の数値となっており、基準値のベースとなるデータ収集が困難になっており、業界へのデータ提供協力依頼を行っている。令和8年度には、十三日町・十六日町地区再整備事業によりホテル126室が新たに整備される予定のため、データ提供の協力が得られれば、数値は増加する見込みのほか、今後は「観光誘客推進事業」や「MICE 事業」、「スピードスケート国際大会等誘致事業」により、宿泊者数の増加が見込まれることから、目標達成は可能と見込まれる。

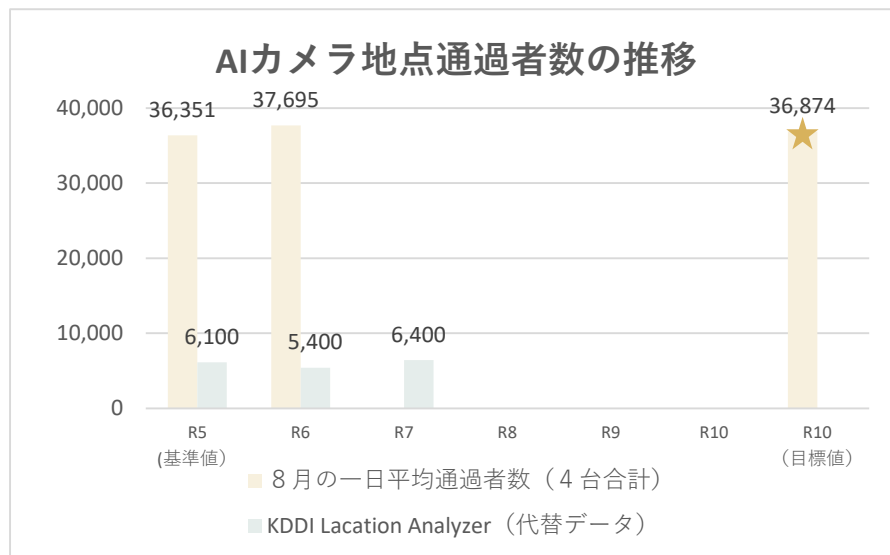
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「AI カメラ地点通過者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 84～P. 86 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R5	36,351 (基準年値) ※6,100
R6	37,695 ※5,400
R7	- ※6,400
R8	
R9	
R10	36,874 (目標値)

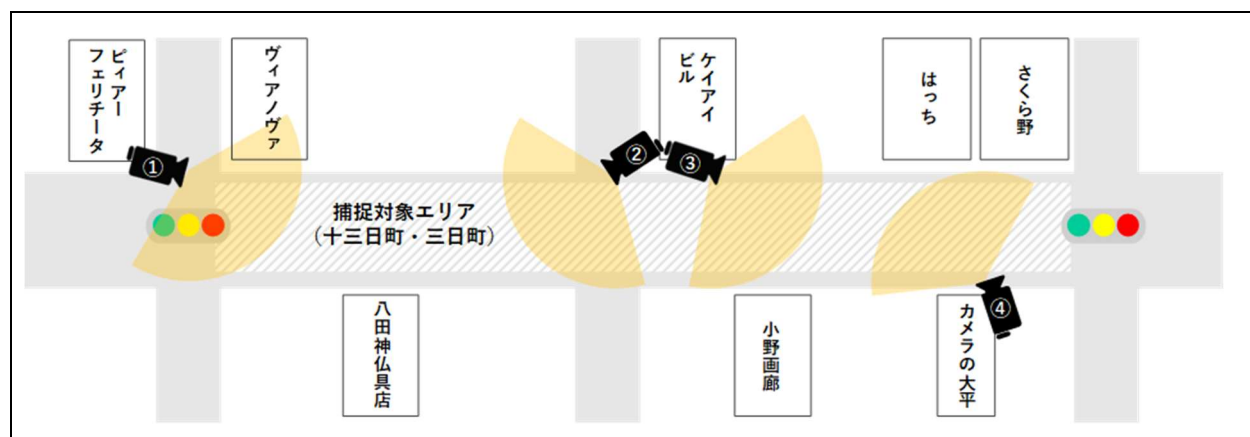
※KDDI 代替データ

※調査方法：AI カメラ 4 台で捕捉した各地点通過者数合計の一日平均

※調 査 月：令和 6 年 8 月

※調査主体：八戸市

※調査対象：三日町・十三日町街区（下図参照）



(単位：人)						
カメラ設置箇所	R5 (計画前年度)	R6 (1年目)	R7 (2年目)	R8 (3年目)	R9 (4年目)	R10 (5年目)
ピアーフエリチータ	6,526 1,600	5,380 1,400	- 1,700			
ケイアイビル1	8,198 1,300	9,175 1,300	- 1,500			
ケイアイビル2	10,363 1,400	11,263 1,200	- 1,400			
カメラの大平	11,265 1,800	11,877 1,500	- 1,800			
合計	36,351 6,100	37,695 5,400	- 6,400			

上段：AI カメラ 下段：KDDI 代替データ

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

調査に用いたデータは au(KDDI)スマートフォンの位置情報ビッグデータ。

(au スマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報および属性(性別・年齢層)情報データ)

- ・データにはインバウンド観光利用者のデータは含まれません。
- ・分析結果の数値は全人口推計値(サンプルを、国勢調査の市区町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値)となります。

〈分析内容〉

「AI カメラ地点通過者数」については、8月5日～8月31日(八戸三社大祭期間中はAI カメラの捕捉精度が落ちるため、調査対象日から除外)の平均値を算出している。令和7年度は人流分析ソフトの不具合により、データ取得不可のため、KDDI Location Analyzer(KDDI が提供する人流データ分析ツール)を代替データとしている。前年比1,000人増の6,400人となり、基準年度の数値を上回る結果となった。AI カメラ地点通過者数は「来街者」の視点の実測値であるのに対し、代替データの数字は「滞留」に視点を置いた推計値であるため、単純に並べての比較はできないが、令和7年度は前年度に比べ「滞留者」の増加が見られた。令和5年度は新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行したことで、本格的なイベントの再開により、ホコテンやマチニワでのイベント等に訪れる方が増えたため、滞留者が増えたと推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 八戸市中心街ストリートデザイン事業(青森県・八戸市)

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	国道340号三日町・十三日町区間の街路をひと中心の居心地が良く歩きたくなるストリートへと再編し、歩行・滞在空間の充実を図るとともに、軒先空間も含めた空間における様々な活動を誘発する。

国の支援措置名 及び支援期間	まちなかウォーカブル推進事業（国土交通省） （令和５年度～令和６年度）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	【事業目標値】1,760人 【最新値】事業完了前につき、効果発現なし。 ウォーカブル事業の推進により、中心市街地来街者の往来が期待できることから歩行者量の増加が見込まれる。
事業の今後につ いて	国道340号三日町・十三日町区間の具体的な街路再整備方針を策定するにあたり、多様な関係者から広く意見を聴取するための「八戸市中心街ストリートデザイン検討会議」を開催し、また、国道340号三日町・十三日町区間において、ひと中心のみちづくりを進める「八戸市中心街ストリートデザインビジョン」に基づき、街路空間使いの実践と定着を図るための「日常の賑い」づくりを目的とした市民の買物と交流の場としてマチニワナイトマーケットを継続して開催する。

②. 十三日町・十六日町地区再整備事業（民間事業者）

事業実施期間	令和４年度～【実施中】
事業概要	民間再開発による商業ビルの建て替え、分譲マンション２棟と店舗・ホテル棟、立体駐車場、さらには公共的通路等を整備する。
国の支援措置名 及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省） （令和４年度～）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	【事業目標値】327人 【最新値】事業完了前につき、効果発現なし。 マンション居住者やホテル宿泊者の増加により、歩行者量の増加が見込まれる。
事業の今後につ いて	引き続き分譲マンション２棟と店舗・ホテル棟、立体駐車場等の整備を進める。

③. 旧柏崎小学校跡地広場整備事業（八戸市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	旧柏崎小学校跡地に八戸三社大祭山車制作展示施設と広場を整備する。山車制作場所を確保できない山車組に提供することでコミュニティ拠点とするとともに、市民や観光客が憩い集うことのできる場とする。
国の支援措置名 及び支援期間	まちなかウォーカブル推進事業（国土交通省） （令和５年度～）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	【事業目標値】233人 【最新値】事業完了前につき、効果発現なし。 広場整備による回遊ルートの構築により、中心市街地への来街機会の創出や回遊性の向上が図られる。

事業の今後について	引き続き広場整備工事を進める。
④. はちのへ AI（アイ）中心街・バス活性化プロジェクト（八戸市）	
事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	地域社会のデジタル化を推進することで、中心市街地における誘客推進と経済活動をはじめ様々な活動を誘発するとともに、バスの利用促進と利便性向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府） （令和 4 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 529 人 【最新値】（参考）はちまち LINE 登録者数 約 7,700 人（令和 8 年 5 月現在） （八戸市中心市街地活性化基本計画 P86 参照） 情報発信アプリ活用による回遊ルートの構築により、中心市街地への来街機会の創出や回遊性の向上が図られる。
事業の今後について	引き続きコンテンツの充実を図る。
④. 八戸三社大祭開催事業（八戸市）	
事業実施期間	昭和 54 年度～【実施中】
事業概要	約 300 年の歴史を誇り、地域の郷土芸能が揃う八戸を代表する祭りである八戸三社大祭（ユネスコ無形文化遺産、国重要無形民俗文化財）の開催・運行を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和 6 年 4 月～令和 11 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 なし 【最新値】 1,565,000 人（令和 6 年度） 例年 7 月 31 日～8 月 4 日の 5 日間開催し、中心市街地は山車が運行する「ハレ」の場となり、多くの観光客が訪れるスポットとなる。道路が歩行者天国になり、中心市街地がイベントのステージとなることで、来街機会の創出や回遊性の向上が見込めるものであり、「AI カメラ地点通過者数」の増加に寄与するものである。ユネスコ無形文化遺産に登録されている八戸三社大祭を中心市街地で開催することは、観光客のみならず、多くの市民、圏域住民の来街機会を創出するものとなっている。祭り期間後も山車の展示が行われるなど八戸三社大祭に触れる機会が来街機会の創出につながり、歩行者通行量の増加が見込まれる。
事業の今後について	長い歴史を誇る先人から現代へと受け継がれてきた伝統ある行事をこれからも開催していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

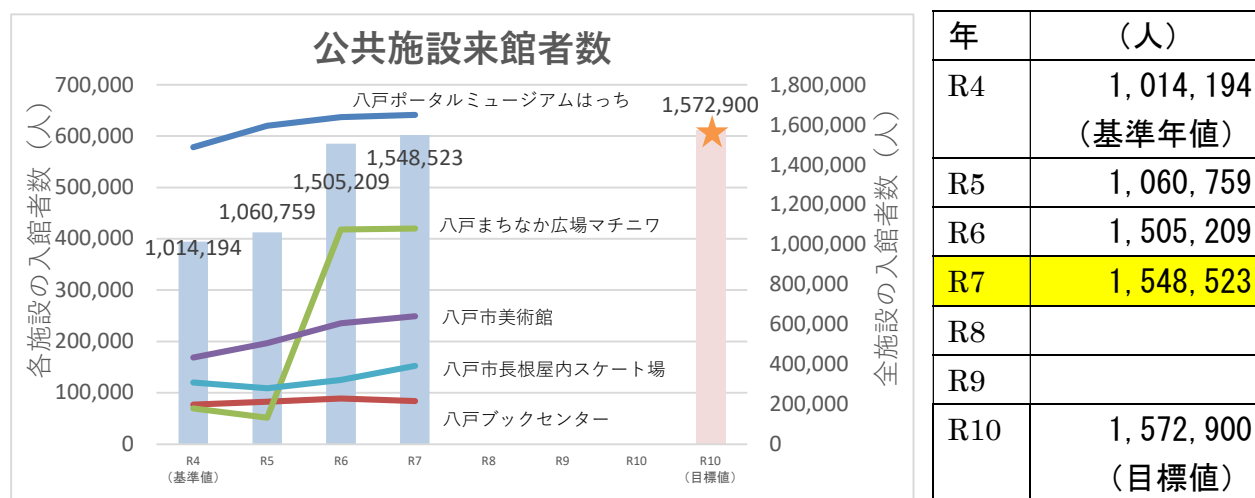
令和7年度は人流分析ソフトの不具合により、データ取得不可のため、KDDI Location Analyzer (KDDI が提供する人流データ分析ツール) を代替データとしている。前年比 1,000 人増の 6,400 人となり、基準年度の数値を上回る結果となった。

今後は「八戸市中心街ストリートデザイン事業」や「十三日町・十六日町地区再整備事業」、「旧柏崎小学校跡地広場整備事業」、「はちのへ AI 中心街・バス活性化プロジェクト」により、中心街への来街機会の創出や回遊性の向上がより見込まれることから、目標達成は可能と見込まれる。

なお、令和8年度以降は NTT 東日本が提供するクラウド型人流分析カウントサービスを開始し、AI カメラによる計測を再開する見込みである。

(2)「公共施設来館者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 86～P. 90 参照

●調査結果と分析



※調査方法：各施設の来館者数を集計

※調査月：令和8年3月

※調査主体：八戸市

※調査対象：八戸ポータルミュージアム「はっち」・八戸市美術館・八戸市長根屋内スケート場・八戸ブックセンター・八戸まちなか広場「マチニワ」における年間来館者数

(単位：人)

公共施設名	R4 (基準値)	R5 (計画前年度)	R6 (1年目)	R7 (2年目)	R8 (3年目)	R9 (4年目)	R10 (5年目)
八戸ポータル ミュージアム	578,903	619,951	636,998	641,739			
八戸ブック センター	77,205	82,737	89,401	84,061			
八戸まちなか 広場マチニワ	69,296	51,964	417,966	420,411			
八戸市長根屋内 スケート場	168,807	196,880	235,618	249,305			
八戸市美術館	119,983	109,227	125,226	153,007			
合計	1,014,194	1,060,759	1,505,209	1,548,523			

〈分析内容〉

「公共施設来館者数」については、令和7年度の来館者数は1,548,523人となり、前年度より43,314人増加し、基準値は上回るものの、目標値は下回る結果となった。施設別にみると、八戸ブックセンターを除き、4施設において、前年度比で、来館者数が増加した。まちなか居住者や観光、ビジネス客といった多様な来街者の増加により、数値が増加したと推察される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 八戸ポータルミュージアムイベント開催事業（八戸市）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	文化・芸術活動や観光の推進を図るため、中心市街地の回遊拠点施設において各種自主事業の実施や貸館の利用促進、創業支援である「ものづくりスタジオ」、さらには市民が自由に利用できる会場所場づくりを行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和6年4月～令和11年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】725,000人 【最新値】641,739人 各種自主事業の企画・運営の実施や、貸館事業により広く市民に活用してもらうことで、来館者の増加を見込んでいる。
事業の今後について	歴史や文化などの地域資源を活かした新たな魅力と賑わいを生み出し、中心街の活性化を図る。

②. 八戸ブックセンターイベント開催事業（八戸市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
--------	--------------

事業概要	市直営の書店であり、「本のまち八戸」を推進する拠点施設で本のまち八戸ブックフェスや各種企画展、高等教育機関と連携した公開講座等を実施することで来街機会を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和6年4月～令和11年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】93,000人 【最新値】84,061人 市内の他書店では取り扱いのない書籍の選定や集客力の高い各種企画などを定期的に行うことで、来館者の増加を見込んでいる。
事業の今後について	引き続き、民間書店では取り扱いにくい本の陳列、販売のほか、関係機関と連携した本に纏わる企画事業を実施することにより来街機会を創出する。

③. 八戸まちなか広場イベント開催事業（八戸市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	「緑・水・光」などの自然要素を取り入れた街なかの「庭」のような広場「マチニワ」において、自主事業の実施や貸館利用に加え、自由に滞在できる空間の提供により、人が集い賑わう場を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和6年4月～令和11年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】474,500人 【最新値】420,411人 自由に過ごせる屋外のような広場であり、様々な活動が展開される場として、自主事業の実施や貸館事業を行うことで、来館者の増加を見込んでいる。
事業の今後について	今後も来街者にとって心地よいと感じられる空間を提供するとともに、季節に合わせた魅力ある装飾や賑わいを創出する事業を実施し、民間が企画するイベントを促すことで地域全体の魅力及び回遊性の向上、周囲への効果波及等を図る。

④. 八戸市長根屋内スケート場施設活用事業（八戸市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	中心市街地に立地する利点を活かし、屋内スケート場として、また、他のスポーツ、コンベンション等のイベントや会議等、多目的な利用を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和6年4月～令和11年3月）
事業目標値・最新	【事業目標値】159,000人

値及び進捗状況	【最新値】249,305 人 中心市街地の中心部から徒歩圏内で行けるスケートリンクという利点を活かし、国際大会や合宿者、各種イベントを引き続き誘致・実施することで、来館者数の増加を図る。
事業の今後について	今後のイベント開催に向けた弾みをつけることを目的に、市主催の「キッズパークイベント」を開催し、アリーナを使用した大型イベントの実績を蓄積しながら、イベント主催者への PR 活動を継続していく。

⑤. 八戸市美術館イベント開催事業（八戸市）

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	「アートのまちづくり」の中核施設となる美術館で、人づくりやまちづくりに分野横断的に取り組むプログラムを実施し、さらに、様々な市民活動の場となることで、市民から観光客まで、子どもから大人までの幅広い層の来館を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和6年4月～令和11年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】121,400 人 【最新値】153,007 人 人の活動に焦点を当てた、これまでにない新しいかたちの美術館で各種企画を実施することで、来館者数の増加を図る。また、美術館前広場を活用し、キッチンカーを設置するなどして賑わい創出を図る。
事業の今後について	継続して事業を実施し、来館者の増加を図る。

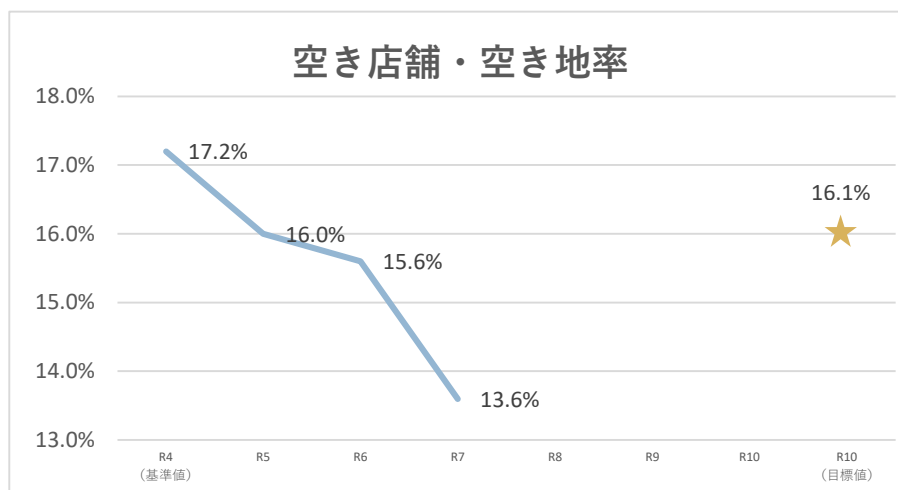
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和7年度の来館者数は1,548,523人となり、前年度より43,314人増加し、基準値は上回るものの、目標値は下回る結果となった。施設別にみると、八戸ブックセンターを除き、4施設において、前年度比で、来館者数が増加した。

今後は、「八戸ポータルミュージアムイベント開催事業」や「八戸ブックセンターイベント開催事業」、「八戸まちなか広場イベント開催事業」、「八戸市長根屋内スケート場施設活用事業」、「八戸市美術館イベント開催事業」といった各施設のイベント充実により回遊性向上が見込まれることから、目標達成は可能と見込まれる。

(3)「空き店舗・空き地率」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 90～P. 92 参照

●調査結果と分析



年	(%)
R4	17.2 (基準年値)
R5	16.0
R6	15.6
R7	13.6
R8	
R9	
R10	16.1 (目標値)

※調査方法：目視による調査

※調査月：令和8年2月

※調査主体：八戸市

※調査対象：三日町・十三日町・廿三日町・六日町・十六日町・八日町・十八日町・長横町・朔日町・本八戸駅通り・鷹匠小路・番町・ハナミズキ通りの1階路面店



凡 例	
	街路
	調査対象箇所

〈分析内容〉

「空き店舗・空き地率」については、令和7年度は13.6%となり、基準値、目標値とも上回る結果となった。店舗外用途での使用や住宅改修使用、駐車場利用など用途の多様化による利活用がみられ、街区によっては、空き店舗・空き地率が高止まり傾向にあるが、十三日町や十六日町は再開発事業の影響もあり、数値が改善した。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 十三日町・十六日町地区再整備事業（民間事業者）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
--------	-------------

事業概要	民間再開発による商業ビルの建て替え、分譲マンション2棟と店舗・ホテル棟、立体駐車場、さらには公共的通路等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和4年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】空き店舗・空き地解消数1箇所 【最新値】事業完了前につき、効果発現なし。 商業施設であったビルを建て替え、商業、居住機能を有する複合ビルを整備する当事業を実施することにより、空き店舗1箇所の解消が見込まれる。
事業の今後について	引き続き分譲マンション2棟と店舗・ホテル棟、立体駐車場等の整備を進める。

②. 中心商店街空き店舗・空き床解消事業（八戸市）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	中心商店街の空き店舗に新規出店する事業者に対し、店舗の改装等に要する経費の一部を支援することで、商業機能の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和6年4月～令和11年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】空き店舗・空き地解消数15箇所 【最新値】空き店舗・空き地解消数5箇所 令和6～7年度は当事業を活用して計5件の新規出店があった。
事業の今後について	当該事業は継続して実施し、引き続き、中心市街地へ活路を見出そうとする新規出店者を後押しすべく、「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」「まちなか生業応援事業」と連動し、スタートアップから創業後のフォローアップまでサポートしていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

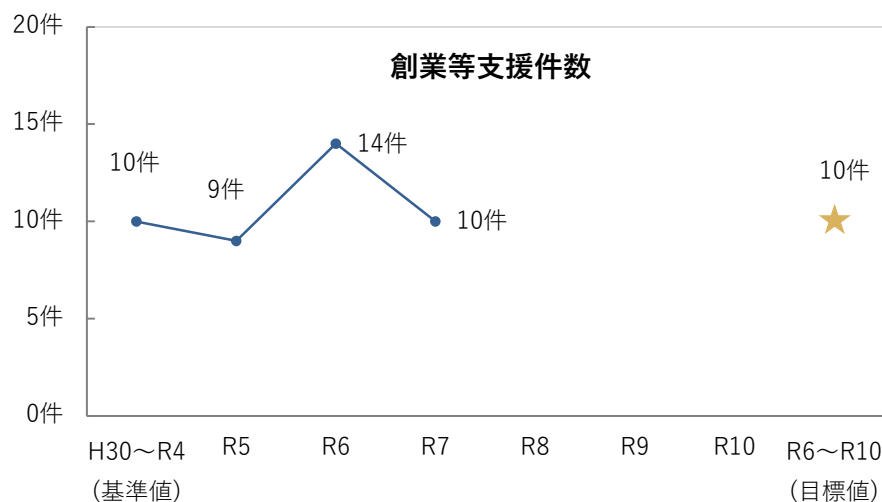
令和7年度は13.6%となり、基準値、目標値ともに上回る結果となった。

今後は、引き続き「中心商店街空き店舗・空き床解消事業」、「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」、八戸市中心市街地活性化協議会において「エリアマネジメントの視点での空き店舗対策事業」等を実施することで、数値改善により寄与すると考えられることから、目標達成は可能と見込まれる。

【参考指標】

（４）「創業等支援件数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 93～P. 94 参照

●調査結果と分析



年	(件／年)
H30 ～R4	10 (基準年値)
R5	9
R6	14
R7	10
R8	
R9	
R10	
R6～ R10	10 (目標値)

※調査方法：創業等支援件数を集計

※調査月：令和８年３月

※調査主体：八戸市

※調査対象：中心市街地区域内における創業等支援件数

〈分析内容〉

「創業等支援件数」については、令和７年度は１０件となり、令和６年度～令和７年度の年平均は１２件となり、目標値としている令和６年度～令和１０年度までの年平均１０件を達成している状況である。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. はちのへ創業・事業承継サポートセンター運営事業（八戸商工会議所）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	株式会社まちづくり八戸が実施する空き物件情報の提供と連携し、起業・創業支援及び事業承継支援を行うことで空き店舗解消に寄与するほか、交流イベントの開催など起業支援プラットフォームの構築により中心市街地での起業促進と活動の後継者育成を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和 6 年 4 月～令和 11 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】年平均 10 件 【最新値】年平均 12 件 令和 6 年度～令和 7 年度の中心市街地区域内での創業は年平均 12 件であった。
事業の今後について	当該事業は継続して実施し、引き続き、中心市街地へ活路を見出そうとする新規出店者を後押しすべく、「中心商店街空き店舗・空き床

解消事業」「まちなか生業応援事業」と連動し、スタートアップから創業後のフォローアップまでサポートしていく。

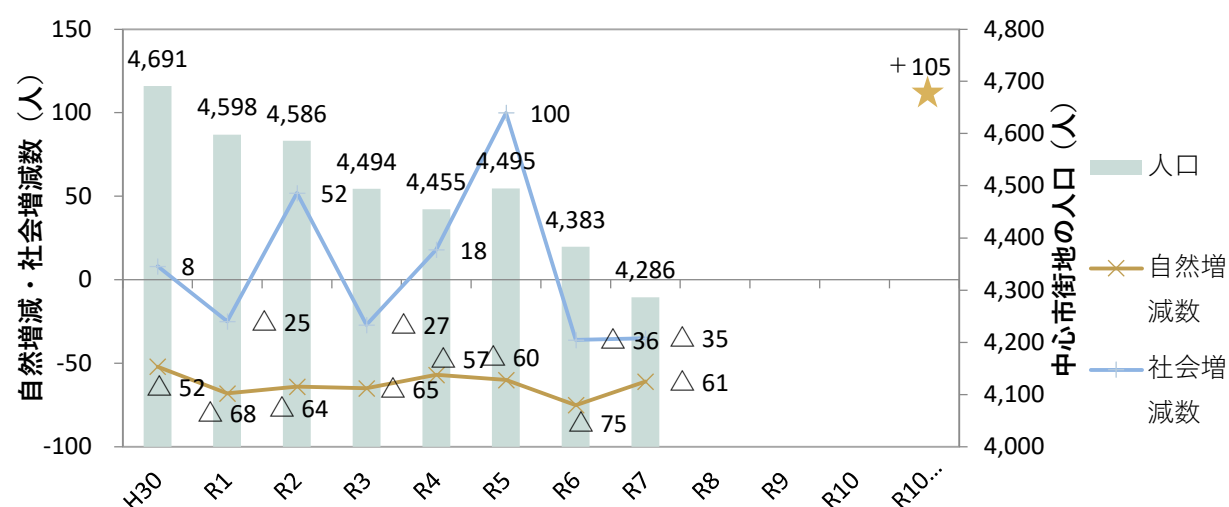
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和7年度は10件となり、令和6年度～令和7年度の年平均は12件となり、目標値としている令和6年度～令和10年度までの年平均10件を達成している状況である。

今後も、引き続き「はちのへ創業・事業承継サポートセンター事業」によるサポート体制の実施により目標達成は可能と見込まれる。

(5)「まちなか居住者増加数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 94～P. 95 参照

●調査結果と分析



※調査方法：市の住民基本台帳データを集計

※調査月：令和7年9月

※調査主体：八戸市

※調査対象：第4期中心市街地活性化基本計画に定める区域内に毎年9月末時点で住民基本台帳に登録のある人数

〈分析内容〉

「まちなか居住者増加数」については、直近の令和7年の社会増減数は35人の減少となった。令和6年からの合計値が71人の減少となり、転出超過となっている。

年	(人)
H30	26
～R4	(基準年値)
R5	100
R6	△36
R7	△35
R8	
R9	
R10	
R6～	105
R10	(目標値)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 十三日町・十六日町地区再整備事業（民間事業者）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	民間再開発による商業ビルの建て替え、分譲マンション2棟と店舗・ホテル棟、立体駐車場、さらには公共的通路等を整備する。
国の支援措置名	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）

及び支援期間	(令和4年度～)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 235 人 【最新値】 事業完了前につき、効果発現なし。 当事業の実施により、マンションが整備される予定であるため、居住者の増加が見込まれる。
事業の今後について	引き続き分譲マンション2棟と店舗・ホテル棟、立体駐車場等の整備を進める。

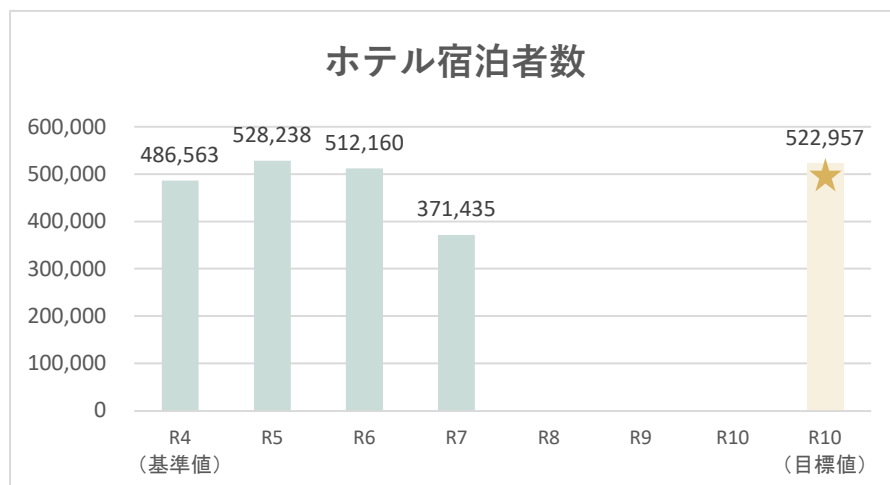
●目標達成の見通し及び今後の対策

直近の令和7年の社会増減数は35人の減少となり、転出超過となった。

今後は、計画期間内に「十三日町・十六日町地区再整備事業」によるマンション2棟が完成することで、居住促進に寄与する見込みとなっていることから、目標達成は可能と見込まれる。

(6)「ホテル宿泊者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 95～P. 97 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R4	486,563 (基準年値)
R5	528,238
R6	512,160
R7	371,435
R8	
R9	
R10	522,957 (目標値)

※調査方法：事業者等からの報告に基づくデータ収集

※調査月：令和7年12月

※調査主体：一般財団法人 VISIT はちのへ

※調査対象：中心市街地エリア内における14の宿泊施設の延べ宿泊者数（人泊）の合計

〈分析内容〉

「ホテル宿泊者数」については、令和7年は371,435人となり、基準値、目標値ともに下回る結果となった。基準値は14施設の合計値となっているが、令和7年は12施設の合計値となっている。2施設において、R6年12月及びR7年1月より宿泊者数の外部提供を行わない方針となったことから、2施設分を除いた12施設分の数値となっており、基準値のベースとなるデータ収集が困難になっており、業界へのデータ提供協力依頼を行っている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 十三日町・十六日町地区再整備事業（民間事業者）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	民間再開発による商業ビルの建て替え、分譲マンション2棟と店舗・ホテル棟、立体駐車場、さらには公共的通路等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（令和4年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】27,302人 【最新値】事業完了前につき、効果発現なし。 令和7年度に竣工し、令和8年度より効果が発現すると見込んでいることから、宿泊者数の増加が見込まれる。
事業の今後について	引き続き分譲マンション2棟と店舗・ホテル棟、立体駐車場等の整備を進める。

②. 観光誘客推進事業（八戸市・一般財団法人VISITはちのへ）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	インバウンド対策、八戸ポータルミュージアムの観光交流機能の充実、周辺観光コンテンツとの連携など戦略的に誘客推進の環境整備を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和6年4月～令和11年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】15,900人 【最新値】インバウンド宿泊者数26,042人 国内外からの観光誘客の推進により、宿泊者数の増加が見込まれる。
事業の今後について	観光展示屋台の展示更新について、年に2台程度の改修を実施する他、引き続き事業を継続して実施する。

③. MICE事業（一般財団法人VISITはちのへ）

事業実施期間	平成12年度～【実施中】
事業概要	中心市街地には、コンベンション開催に適したホールや会議室が集積しており、宿泊や飲食などの経済効果が見込まれるため、市内でのコンベンション開催に対し、開催経費の一部を助成する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】4,500人 【最新値】コンベンション誘致1,550人 コンベンションの誘致により、宿泊者数の増加が見込まれる。
事業の今後について	引き続き事業を継続して実施する。

いて	
④. スピードスケート国際大会等誘致事業（八戸市）	
事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地に立地する利点を活かし、屋内スケート場として、また、他のスポーツ、コンベンション等のイベントや会議等、多目的な利用を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 15,000 人 【最新値】 スポーツ合宿等宿泊者数 18,293 人 スポーツ合宿等の誘致により、宿泊者数の増加が見込まれる。
事業の今後について	国際スケート連盟から日本に割り当てられる国際大会を当市で開催するため、日本スケート連盟に働きかけるなど、誘致活動を継続していく。
●目標達成の見通し及び今後の対策 令和 7 年は 371,435 人となり、基準値、目標値ともに下回る結果となった。基準値は 14 施設の合計値となっているが、令和 7 年は 12 施設の合計値となっている。2 施設において、R6 年 12 月及び R7 年 1 月より宿泊者数の外部提供を行わない方針となったことから、2 施設分を除いた 12 施設分の数値となっており、基準値のベースとなるデータ収集が困難になっており、業界へのデータ提供協力依頼を行っている。 令和 8 年度には、十三日町・十六日町地区再整備事業によりホテル 126 室が新たに整備される予定のため、データ提供の協力が得られれば、数値は増加する見込みのほか、今後は、「観光誘客推進事業」や「MICE 事業」、「スピードスケート国際大会等誘致事業」により、宿泊者数の増加が見込まれることから、目標達成は可能と見込まれる。	